

(様式 1)

令和6・7・8年度「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」
学校改善プラン(1年次)【中学校】

【学校名等】

学校名	南丹市立園部中学校							校長名	宅間 治郎
学 年	1 年	2 年	3 年	特別支援				生徒数	395 名
学級数	4	4	4	4					
事業担当教員名	森 哲也								
① 中学校区で目指す子ども像	人とのつながりを大切にし、主体的に生きる子どもを育成しよう ～ 保幼小中が一体となって取り組む非認知能力の育成を目指して ～								
② 目指す子ども像	1 自他の生命・人権を尊重する生徒 2 粘り強く考え合い主体的に課題を解決する生徒 3 心身ともに健康で、強い意志を持ち、予測不能な社会を力強く生き抜く生徒 4 自身の生き方に見通しをもち、成果や課題を振り返りすることで自身を高めることができる生徒 5 地域とのつながりを大切にし、ふるさと南丹市を愛し、地域に貢献できる生徒								
③ 目指す子ども像に対する現状と課題	①現状について 昨年 5 月に実施された学びのパスポートからは、学習を少なからずやっている生徒の割合は高い。しかし、2 時間以上になると、学習はしているものの 2 時間以上学習している生徒は少ない状況が見られる。なお、小中連携は、英語と数学で行っていて、専門的な指導を行うとともに、円滑な小中の接続につながっている。 ②研修の状況について 夏休みに学びのパスポートの研修として、学年ごとにペアになり、各学級の分析の研修の仕方について研修を行った。 その研修を活かし、分析結果を基に 3 つの非認知能力を具体化して、学校行事等で重点化するとともに、振り返りシートを活用して非認知能力の醸成に努めた。 また、授業においても分析から「主体的・対話的で深い学び」の重要性を共通認識するとともに、それらを学習活動に意識的に取り入れた授業改善を図った。 ③探究学習について これまで総合的な学習の時間において、1 年生では防災学習、2 年生では勤労体験学習、3 年生では修学旅行に向けての平和学習、全学年で人権学習等を中心に取り組んできた。その中で、それぞれの学年でテーマ決め、調べ学習やプレゼンテーションの学習に取り組んできたことによって、自分たちの考えを他の人に発信する力は付けられたと感じている。 しかし、そのテーマは学年であらかじめ決められたものであり、自ら課題を見付け、その課題に対して協働的に探究するといったものにはなっていない。そのため、本来の教科横断的に物事を考えたり、探究する上で身に付けたい基礎的・汎用的能力の育成には、課題があると感じている。 そこで、小学校で取り組んでいる「地域学習」を系統的に学習できるように、進学した先の中学校 1 年生において「自分たちが住んでいる地域の課題に対して、納得解を求める授業」いわゆる課題解決型学習を総合的な学習の時間に実施を計画しているところである。 これにより、論理的な思考力の育成、課題解決のための基礎的・汎用的能力の育成に資するものとしていきたい。 ④ブロックについて 園部中学校ブロック全体として、小中学校とともに様々な取組の中でタブレットを活用している。 例えば、子どもたちの協働的な学びの中では、ロイロノートを使うことで意見交流、発表、シンキングツールを使って考えを深める等を効果的、効率的に行っている。また、AI ドリル「すらら」を活用し、授業の導入での活用や不登校や別室登校の生徒が個別学習できるように活用している。 これらは、小学校においても、協働的な学びを深めるツールとして活用を進めるだけで								

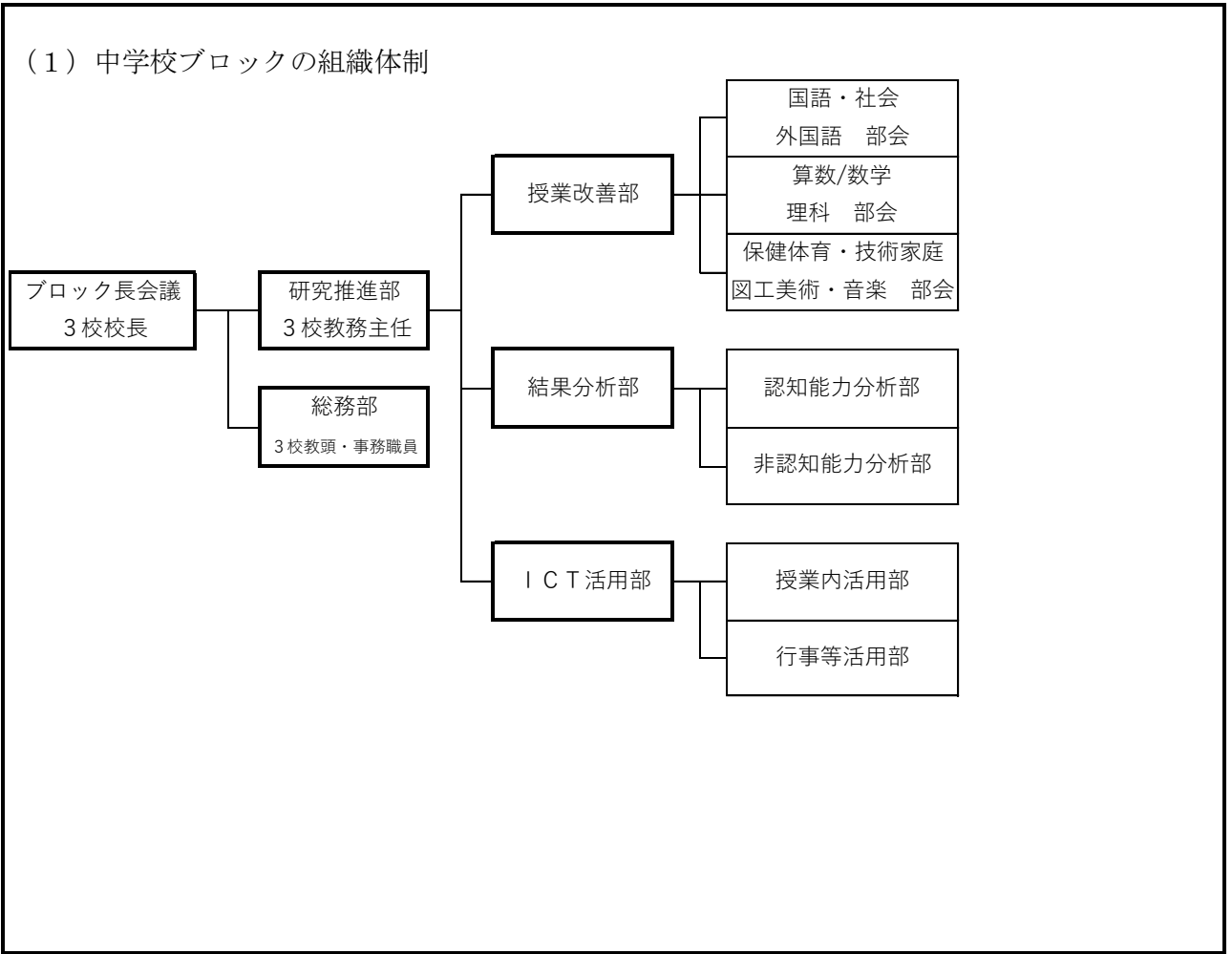
	なく、家庭学習においても「すらら」を活用し、問題配信等を行い個々の児童の学力課題に応じた指導を工夫している。
④ 目指す子ども像に達するための仮説	【仮説１】効果検証による「学力向上システム」の具体化と汎用性の向上 これまで本校で取り組んできたこととして、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けての授業改善を「学力向上システム」として体系化してきた経緯がある。そこで、そのシステムをより具体化し、汎用的なものとするために、学びのパスポートの結果分析を通じて、変容を見取ること取組の効果検証を行い、さらに効果的な育成システムとすることができるのではないかと。 【仮説２】探究的な学習の取組の充実と非認知能力の効果的な醸成 激変社会をたくましく生き抜く生徒の育成するためには、これまでよりも充実させた探究的な学習に取り組み、１年生で地域の課題を題材とした課題解決型学習、２年生で勤労体験学習、３年生で平和学習、人権学習へと系統的に接続させることによって、効果的に基礎的・汎用的能力を育成が図れるのではないかと。 また、行事においても、育てたい非認知能力を重点化し、振り返りをきめ細かく行うことで、指導者が共通した意識で声かけできるため、より効果的な非認知能力の醸成につながるのではないかと。 【仮説３】学びのパスポートによる効果検証 学びのパスポートの結果分析においては、これまでできなかった授業改善の効果検証、行事等での非認知能力の見取り、学校教育全体を通して、教育の質を改善していくための様々な効果検証の客観的指標となるのではないかと。

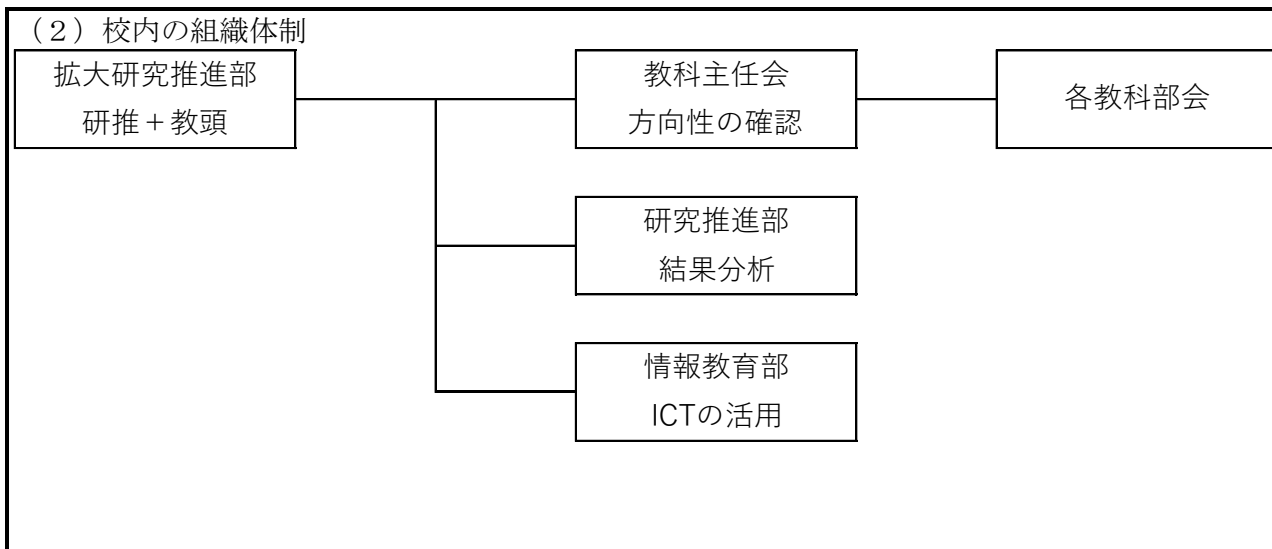
令和６年５月１日現在

【１ 研究主題】

学びのパスポートの活用による認知能力と非認知能力の一体的な指導の在り方について

【２ 研究組織体制】





【3 研究計画・具体的な取組内容】

実 施 月	研究内容、研究方法、成果の公開 等
4 月	
5 月	
6 月	公開授業週間 府指導主事による研修 新時代の学びを支えるICT教育講座受講（情報教育主任） 探求的な学び講座シリーズⅠ受講（教務主任）
7 月	ブロック研究会【非認知能力の育成】
8 月	8月上旬＊学びのパスポート結果返却、第1回分析・活用研修会 学びのパスポートの分析 府指導主事及び大学教授等による研修
9 月	
10月	10月上旬＊第2回分析・活用研修会 探究的な学び講座シリーズⅡ授業（教務主任）
11月	公開授業週間 府教委指導主事との研修 ブロック研究会【学びのパスポートの活用による分析結果】 PBL中間発表会（1年生）
12月	
1 月	＊研究校交流会（予定） 探求的な学び講座シリーズⅢ受講（教務主任） きょうと明日へのチャレンジコンテストへの参加（1年生）
2 月	公開授業週間 府教委指導主事との研修 PBL本発表会（1年生）
3 月	

【4 仮説及び成果を検証するための質問項目】

学年	質問 番号	質問項目	概念	備考
全	4 6	まわりが反対しても、自分ができると思ったらやってみる。	目標に向けて取り組む姿勢	
全	5 1	はじめに目標やゴールを決めてから計画を立てるほうだ。	計画性	
全	5 2	失敗してもあきらめずに何度も挑戦するほうだ。	チャレンジ精神	

＊ 5・6の分析の項目は削除しています。

【7 分析結果を踏まえた指導改善、個に応じた具体的な手立て】

個に応じた具体的な指導・支援方法

- 二者面談の機会を設け、本人の思いを聞く機会を設ける。
- 生活習慣を整えられるように、家庭でのルールを再確認させたり、なぜ学ぶのかの理解を深めたりしていく。
- 小さなことでも認めて、できることを増やす。
- 安心して自分を出せる環境を意図的に作る。クラスの雰囲気を温かいものにしていく。
- 家庭学習を意欲的に取り組めるように、個別指導を進めていく。
- 学習の仕方の支援→計画の立て方を指導する。

集団としての具体的な指導・支援方法

- 家庭学習課題の工夫。誰もが取り組みやすいものにしていく。
- グループワークの内容を工夫する。
- 他人の意見を否定しない等、協働的な学びにおけるルールを確認し、自信をもって意見が話せる環境を作る。意見を繋ぎ、内容の深まりを意識させる。
- AI ドリルの活用。基礎知識の定着を図るために進めていく。
- プレゼンテーションなどで①適切なモデルの提示、②適切な評価基準の提示、③適切な課題の提示、④自分に見合った目標設定などを示し、生徒が主体的に取り組もうとするような働きかけを行う。
- 日常生活での経験を活かせるような学習課題を設ける。

【8 仮説の修正】

- これまでから本校で取り組んできた学力向上サイクルの具体化を進めることで、さらなる授業改善を図っていく。
- 1年生で、課題解決型の学習（PBL）を実践するとともに、2年生の勤労体験学習においても、体験を通して探究的な学習へと発展させる内容にする。

【9 具体的な取組内容の修正】

- これまでから本校で取り組んできた学力向上サイクルの具体化を進めることでさらなる授業改善を図っていく。
→学力向上サイクルを具体化したことを表示、見える化し、汎用性についてブラッシュアップを続けていく。
- 1年生で、課題解決型の学習（PBL）を実践するとともに、2年生の勤労体験においても探究的な学習に取り組めるものとする。
→勤労体験では、「体験」することを目的とするのではなく、その後に体験先と関係を持ち続けられることができるような状態を作っていきたい。そうすることによって、主体的に地域貢献ができる生徒を育成していきたい。また、勤労体験において個人テーマを設けさせることで、ただ体験していくのではなく、働くという意味を考える機会とできるような勤労体験学習にしたい。

【10 生徒の変容（普段の様子から）】

1年生では、総合的な学習の時間において、課題解決型の学習（探究的な学習）に取り組み、プレゼン能力や情報収集能力を養うことができた。生徒たちは、表情豊かに取り組んでいる様子が見られた。また、協力企業や外部講師の方からも発表内容について良い評価をいただくことができています。今後も継続して、取り組んでいきたい。

2年生では、勤労体験を経て、気持ちの変化もあり、学習態度に変化が見られている。勤労体験の中で、「今を頑張らないといけない」ということをどの事業所でも教えてもらっており、生徒たちにプラスの変化が見られているのだと推察される。また、学年のリーダー会を中心に取組を行い、良い方向に向かっている。

3年生では、受験生としての意識が向上してきており、学習に対して集中する環境づくりができています。また、リーダー会を中心に取組が行われ、生徒アンケートの結果では家庭学習時間が伸びている。家庭学習を個人に任せるのではなく、全体で学習の雰囲気を醸成していくことの重要性を感じた。

生徒向けの授業アンケートでは、3年生では「授業の内容が理解できている」という項目で肯定的な回答が増加しており、2年生では、同じ項目において、数学などの一部の教科で向上が見られた。また、「授業は自ら進んで学ぼうとしている」という項目においても肯定的な回答が増加した。

ただ、認知能力の向上に向けて、低学力層に対しての個別補充や自主学習環境の整備、家庭学習の方法等の指導などを行う取組を続けているが、認知能力（テストの点数）の向上につながっていない現状も見られるため、授業の内外で認知能力と非認知能力のどちらかだけを上げようとするのではなく、一体的に育む意識を持つことが重要だと感じている。

全体を通して、劇的な変容とはなっていないが、各種質問調査や生徒アンケートの肯定的な回答の増加から、少しずつ改善していると感じている。これからも「学びのパスポートの活用による認知能力と非認知能力の一体的な指導の在り方について」をテーマとして研究を続けていきたい。

【11 2年次の研究構想】

- （1）ブロックで統一の重点目標を設け、その変容を学びのパスポートを活用し、分析する。
- （2）分析結果を基に、ブロック全体での授業改善の方向性を共有し、各教科の具体的な取り組みにつなげる。
- （3）各校で取り組んでいる研究を交流し合い、より効果的な取組となるように系統的な整理を行う。例えば、探究的な学習において、小学校で行う地域学習などの様々な取組の中に探究的な要素を取り入れ、それらを中学校で行う課題解決型学習を行う素地として、中学校での取組につながるようにする。
- （4）個別最適な学びと協働的な学び、認知能力と非認知能力等、どちらかを育むのではなく、バランス良く育むことができるように意識的に計画していく。

【園部中学校における具体的な取組】

- ① 1年生で取り組んだPBLを全学年で実施できるようにしていく。
例）2年生：勤労体験 3年生：平和学習
- ② 課題解決型の学習で経験した「課題解決の手順」を教科横断的な視点で活用していく。
例）パフォーマンス課題など
- ③ 個別最適な学びと協働的な学びのバランスをとっていく。
- ④ 非認知能力の客観的な効果検証結果を具体的な行事改革、精選につなげていく。
- ⑤ 学力向上サイクルの更なる具体化と汎用性の高いものとしていく。